

こんにちはコミュニティ
Community



CONTENTS

- 02 令和4年度総会
- 03 コミュニティ活動功労者表彰
- 06 コミュニティ研修会
- 07 コミュニティ通信
- 08 書籍紹介
- 09 いきいきコミュニティライフ
- 10 お知らせ

Vol.
120
September
2022



入内澤会長

令和4年度 栃木県コミュニティ協会総会 コミュニティ研修会

2022.5.23（月）

栃木県総合文化センター 特別会議室



野原栃木県県民生活部長 来賓祝辞



化センター特別会議室にて、令和4年度 栃木県「コミュニティ協会総会・コミュニティ研修会」を開催しました。総会では、令和3年度の事業報告及び収支決算報告と令和4年度の事業計画・収支予算が原案どおり承認されました。

同席上において、「コミュニティ活動功労者の表彰も併せて行いました。この表彰は、多年にわたり住みよい地域社会実現のためにつくづくを推進し、成果をあげられている団体・個人を讃えるとともに、将来にわたりその活躍が期待される個人・団体に対し活動を奨励するために対し施しているものです。

5月23日（月）に栃木県総合文化センター特別会議室にて、令和4年度 栃木県「コミュニティ協会総会・コミュニティ研修会」を開催しました。総会では、令和3年度の事業報告及び収支決算報告と令和4年度の事業計画・収支予算が原案どおり承認されました。

今年度は知事表彰として1団体、「コミュニティ協会長表彰は3団体と1名の表彰でした。

「コミュニティ研修会では「人とつながり、まちを元気にする」「ミニユーティナースとは？」を演題に合同会社繋ごう農村「ミニユーティ事業部執行役で「ミニユーティナースでもある坂本朋子氏を講師に一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人氏を「コーディネーターにお迎えし、トークセッションをしていただきました。コミュニティナースの活動をご紹介いただきながら、会員の皆さまから「個人情報の取り扱いなど」の質問を受けておられました。



会員の皆様への感謝や受賞者への敬意を表し、「安全・安心で暮らしやすい地域社会の実現のため、各「コミュニティ組織や各団体の皆様が多岐に渡る活動を展開されている中、長引くコロナウイルス感染症の影響で活動の中止や縮小が余儀なくされている。「ミニユーティ協会では昨年12月にコロナ下における「ミニユーティ活動のあり方を模索するためのアンケート調査を実施した。その結果、「祭りや行事・イベントができない」や「住民間・世代間の交流の機会が持てない」など課題が浮き彫りとなつた。これらの課題の解決の糸口となるように協会の研究推進委員会として緊急アピールを行つた。引き続き「ミニユーティ活動がコロナ禍に負けず、推進されるよう支援に努めて参る。」と挨拶しました。

また、10月に開催されるとちぎ固体へ向けて「花いっぱい運動」への協力として花の種を配布し、参加を呼びかけました。

■入内澤会長あいさつ■

■野原部長祝辞■

会員の皆様への感謝の意と表彰者への敬意を述べられました。

「本県を取り巻く環境は少子高齢化、人口減少の進行や新型コロナウイルス感染症による社会経済活動の停滞の長期化により、コミュニティ活動の衰退が懸念されている。その一方で、自然災害の頻発・激甚化もあり、地域住民のつながりは、ますます重要性を増している。

県では今年度地域コミュニティとNPOが協働し、地域貢献活動に興味はあるが、参加できていない方々に、身近な活動に参加していただけるよう、地域の助け合い強化を図るモデル事業に取り組む。今後も地域コミュニティや各団体の皆様と一緒に連携を図りながら、地域コミュニティの活性化に取り組んで参る。引き続きご理解・ご協力をお願い申し上げる。

また、とちぎ国体では、他県からの選手団の皆様に本県の魅力を伝えたい。」と述べられました。

令和4年度 コミュニティ活動功労者表彰



● ● ● ● ● あさひコミュニティ推進協議会 ● ● ● ● ● 知事表彰受賞おめでとうございます！

栃木県内のモデルコミュニティ指定第1号として昭和51年に設立されて以来、長きにわたり地域住民の相互理解・融和を目的としたコミュニティ活動を継続しています。

平成25年からは、新設された「小山市小山城南市民交流センター(ゆめまち)」の指定管理者となり、地域コミュニティ向けの事業に加えて、全市民に向けた事業も実施しています。指定管理期間9年間で、利用者は増加し、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度には年間利用者数が延べ9万人に上りました。新型コロナウイルス感染症拡大後も、早期にパーテーションを作成して利用者に貸与したほか、市内その他施設に先駆けて二酸化炭素濃度計を導入するなど、感染予防対策を講じながら活動を継続しています。



- 知事表彰を受賞して ● あさひコミュニティ推進協議会 会長 澤 口 茂 利

あさひコミュニティ推進協議会が今年度知事表彰を受けたのは、「小山城南市民交流センター」の指定管理者として9年間の活動実績を評価されてのことと大変感激しております。今後も、地域の活動拠点としてより多くの皆様にご利用いただくよう尽力して参ります。



● ● ● 山 口 寛 昌 氏 (小山市) ● ● ● 会長賞受賞おめでとうございます！

平成21年からあさひコミュニティ推進協議会の広報部副部長として活動に携わり、その後現在に至るまで事務局長や事務局員として協議会の運営に積極的に携わっています。

特に協議会が活動拠点である小山市小山城南市民交流センターの指定管理者として運営を始めた際には、率先垂範を心がけ、自ら来客対応を行い、新規雇用の職員の指導にあたるなど、初動体制を確立しました。

現在も、事務局や従業員の相談に応じたり、センターの利用者へ指導したりするなど協議会にとって欠かせない存在です。



● 会長表彰の受賞に寄せて ●

あさひコミュニティ推進協議会のコミュニティ活動と市民交流センターの指定管理業務との融合によって多くの方が館で活動されていることを喜んでおります。過大な表彰を頂戴しましたが、微力ながらもお手伝いできたことを大変名誉なこととお礼申し上げます。

● ● ● 東 那 須 野 地 区 ふ れ あ い 推 進 協 議 会 ● ● ●

明るく住みよい心の通い合う地域社会をつくり、伝統ある故郷の行事を守り発展させるとともに、まつりを通じて郷土愛を育て、健全な青少年育成と産業の振興を図ることを目的に、平成9年に設立されました。

主な活動として、市民の憩いの場である東那須野公園の水仙植栽、花まつり、夏の盆踊り大会、秋の那須野巻狩まつり大将鍋出陣式、冬の花市などを実施しています。

地域の様々な団体、関係機関と連携して、誰もが健康で住みよい明るく心の通い合う、安心安全なまちづくりの推進に重要な役割を果たしています。



● 会長表彰の受賞に寄せて ●

長年の活動に対しまして、会長表彰の栄に浴したことは、今度のコミュニティ活動の励みとなります。コロナ禍の中、様々な活動が制限されてきました。人と人の繋がりの大切さを実感いたします。これまで以上に活動の充実を目指してまいります。

● ● ● ● ● 石田青年クラブ ● ● ● ● ●

大田原市湯津上地区にある国史跡の上侍塚古墳・下侍塚古墳、市史跡の観音塚古墳・ニツ室塚古墳の下草刈りを約30年にわたり継続して行っています。特に、上・下侍塚古墳は、県内屈指の大型の前方後方墳であり、作業面積は相当に広く、勾配が急なところも多いために、作業がしづらく危険も伴いますが、地元の貴重な文化財を自分たちの手で保護する活動を長きにわたり継続して行っています。

地域の人達にとって、地域の次代を担う頼もしい存在として映っています。



● 会長表彰の受賞に寄せて ●

この度は、このような賞をいただきありがとうございました。侍塚古墳が多くの中元の人たちに大切にされているのを見て、地域の宝であると感じてこれまで活動を続けてきました。これからも、地域に愛される史跡を未来へ繋いでいけるよう、活動していきたいと思います。

● ● ● 南押原地区コミュニティ推進協議会 ● ● ●

平成15年6月に設立され、地域住民が自主的に、互いに助け合い、協力し合って心豊かな生活を過ごすことができるコミュニティの形成や地域の活性化を図ることを目的に活動しています。

そのために、交流の場を意識して作る必要があると考えて、1,000人を超える参加者が集まるかるさと祭り、地域の文化振興を図る文化祭、地域の自然や文化・歴史などに触れる史跡巡りウォーキング、福祉の推進と融合を図る敬老会などを地域の方々がボランティアで協力し、実施しています。

また、協議会内の団体が、閉館となった児童館を地域の拠点「友遊館」として開館し、多世代サロン、元教員が指導する学習室、子ども食堂など15の事業を実施しています。



● 会長表彰の受賞に寄せて ●

誰もが望む地域での生活は、安全安心に過ごすことができること。それには、お互いに助け合い支え合うことが必須。「お互い様」を合言葉に、話し合い、理解し合ってみんなでまちづくりをしてきたことが今回、栃木県コミュニティ協会会长賞を受賞し、この上ない喜びです。これからも励んでまいります。



令和4年度 コミュニティ研修会

「人とつながり、まちを元気にするコミュニティナースとは？」

講 師 坂本 朋子氏

(合同会社繋ごう農村コミュニティ事業部執行役)

コミュニティナース IN とちぎ)

コーディネーター 廣瀬 隆人氏

(一般社団法人 とちぎ市民協働研究会 代表理事)

Q コミュニティナースとは？

A “人とつながり、まちを元気にする”ということを通して、健康に寄与していく人材や概念のことを言います。いつも地域において“健康的なまちづくり”をする医療人材や住民とパートナーシップを形成しながら、専門性や知識を生かして活動する人材です。コミュニティナースの矢田明子さんが提唱されています。



Q コミュニティナースはどんな活動をしていますか？

A 全国で活躍されているコミュニティナースの活動方法は様々であり、国内に約500名、栃木県内は20名のコミュニティナースがいます。収入源も様々で、例えば、島根県出雲市で生活支援コーディネーターをしながらマットス（体を動かすゲーム）をして活動している方や奈良県山添村で唯一のガソリンスタンドで活動する役場勤務の保健師さん、スナックにお客さんとしてきた方の相談や愚痴を聞くコミュニティナースがいます。不安なことや悩みごとを聞き、適切な場所に繋ぐなど安心して家で過ごせるよう、地域住民のサポートをする活動をしています。

Q 坂本さんの活動を教えてください。

A 合同会社繋ごう農村の社員として移動スーパーで販売をしつつ、お客様と話しながら、寄り添うコミュニティナースの活動をしています。「たのしい」「うれしい」「よかった」のおせっかいを暮らしのパワーにしてつながりを楽しみましょう。

Q 坂本さんの原動力は何ですか？

A 原動力は3つです。

- ① 地域のもったいないを再発見したい。
- ② 暮らしを整えると健康の質が上がる。
- ③ 「暮らしの風景」が大好き！



研修会の様子

那須烏山市の古民家おおぎすでは健康合宿を行っています。景色がきれいな場所でおひつの美味しい手作りごはんをみんなで食べることで、子どもから大人まで年齢に関係なく共通の話題がなくとも和みます。那須塩原市では「暮らしの保健室」を開いています。ここで、住民の健康や悩みの相談を受け付けています。

コミュニティナースは健康・お悩み相談のため地域の公民館に行くこともあります。

※コミュニティナースとは？ YouTubeでもご覧いただけます。→



コミュニティ通信

創立30年を超えて
活動をされています！



◆ 三島地区コミュニティ運営委員会 会長 田代 保雄 (那須塩原市) ◆

～三島地区コミュニティの紹介～

三島地区コミュニティを紹介いたします。現在は那須塩原市に属しておりますが旧西那須野町時代に結成し、創立30年を超えております。三島小学校区内の6自治会から構成されており、参加戸数は3,000を超えます。

三島地区の北部は田園風景、中心部は住宅が建ち並んでおります。他県市町からの転入者も多くコミュニティ活動も活発になっております。地区内の小学校も児童数は700名を超えにぎやかです。

コミュニティ活動は、文化教育部、福祉部、まつり部、まちづくり部、広報部の5部制ですすめられ、年間の活動方針は役員会および運営委員会(総会)で決定されます。

ここ2年ほどはコロナウィルス感染症の影響で中止の行事が多くありましたが、今年度は元気よく実施したいと思っております。特に文化教育部は昔ながらのどんどん焼き、花いっぱい運動、自分たちの住む三島地域の歴史を学ぶ取組を行っており、子どもたちの重要な勉強の場となっています。

また、田んぼを借り、手植えでの田植え体験を行っています。田植えにはおはやしの伴奏もありこども達は大はしゃぎです。収穫されたお米は秋の収穫祭と一緒にいただきます。

例年秋に開催される「コミュニティまつり」は、コミュニティ一番のイベントで、各自治会からの出し物で交流を深めています、うどんやそばの模擬店がありますが1番人気は餅つき販売です。今年はコロナの影響がなく実施できればと思っております。今後も地域の核として、地域と一緒に活動していく所存です。



■「コミュニティ通信」コーナーでは、各団体の活動やどのような想いで活動されているかを紹介させていただきます。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。



つっちー おすすめ！



◆書籍紹介◆

『中山間地域ハンドブック』



佐藤洋平・生源寺眞一監修
中山間地域フォーラム編 農山村文化協会発行

中山間地域（ちゅうさんかんちいき）とは、平野の外縁部から山間地のこと。日本の国土面積の7割弱、栃木県内では約5割を占めています。中山間地域は都市部に比べ、人口減少や高齢化といった社会課題を「先取り」していく、ネガティブな印象が強いかもしれません。しかし、本書を読み進めることで、新しいライフスタイルとビジネスモデル提案の場となりつつあると認識できる、いわば「目から鱗」な1冊です。

本書は5章構成になっています。第1章は「過去」としての歴史が紐解かれています。中山間地域に関する政策は1980年代後半から農業の領域で盛んに使われるようになつたことを指摘しつつ、その課題として人や土地の空洞化と共に、ムラすなわち地域コミュニティの空洞化の進展が都市部の今日的な問題と類似していることも指摘しています。第2章では過去と「現在」のつながりについて、データをとおして確認することができます。集落機能の低下が定量的に示されている点が興味深いです。

本書の中核をなしているのが第3・4章です。第3章で挙げられた36のテーマは中山間地域を理解するにはどれも不可欠であり、地域づくりを進めるためには押さえておきたいキーワードばかりが並んでいます。それらのキーワードの理解を深めるには、第4章で挙げられている地域事例の存在も欠かせません。限られた紙幅ながらも特徴的な実践のプロセスが丁寧にまとめられています。そして、最終章である第5章では、「未来」に向けて識者たちが中山間地域再生のポイントとして提言をしています。

中山間地域はもとより、都市部における問題を考えるうえでも示唆に富むこと間違いなしです。高校生にも興味を持つてもらえるよう読みやすい平易な文体になつていることも本書の魅力の一つです。ぜひお手に取つてみてください。

土崎 雄祐（つちざき ゆうすけ）秋田県生まれ。これまでにNPO職員や大学教員として学生向け地域志向科目や市民向け講座のプログラム開発、自治体職員研修の企画立案支援などに従事。（一社）とちぎ市民協働研究会専務理事、認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房常務理事。公職として、那須塩原市男女共同参画審議会会长など。

私たちもコミュニティづくりに協力しています

県民・行政・企業の協働と社会貢献活動のお手伝いをします！



NPO法人とちぎ協働デザインリーグ
TOCHIGI COLLABORATION DESIGN LEAGUE
みんなと育むまちづくりシンクタンク

とちぎボランティアNPOセンター「ぽ・ぽ・ら」管理運営団体

☎ 070-4288-7400 HP: <https://www.tochigi-tcdl.net/>



連載 いきいきコミュニティライフ！⑥

文 / 安藤 正知

「心地よい刺激を求めて」

以前のコラムで、自治会関係者同士の勉強会の話をしましたが、日頃お付き合いがあまりない、自治会と直接関わりのない人たちとの交流も刺激になると思います。今回はそんな機会として、宇都宮市内の自治会役員が県内外の若い世代と直接お話をした様子をご紹介します。

8月初旬に社会教育士を目指す皆さんのが講習（受講生は約90名、その多くが30代の教職員、行政職員）の一環で「地域と自治会を理解するための聞き取り調査」が行われ、自治会役員9名がご協力下さいました。各役員とも、受講生5名を相手に90分×2回という長丁場の対応となつたので、どのような展開になるのか多少心配しましたが、全くの杞憂でした。受講生の皆さんのが、あらかじめ地域の概要、役員になるきっかけ、活動内容、自治会の役割、地域の課題など質問事項をしっかりと準備して調査に臨んだこともあり、役員の方々の個性と受講生の聞き上手もマッチして、どのグループも予想以上の盛り上がりを見せっていました。

教職員が多かったことから、地域と学校の関わりが気になるようでしたが、「地域活動の担い手は60代を中心になるといいが、定年退職して地域に戻ってくるには、その地で過ごした小中学校の思い出が大切ではないか」という役員の言葉が印象に残りました。コロナで活動が縮小する今こそ、自治会に関心をもたなかつた世代が「思い出」にできる地域づくりを再構築する良い機会になるでしょう。地域の魅力を見つけてそれを大切に育む、そのために必要なことは何かのヒントを得る、今回の企画はお互いが心地よい刺激を得られたであろう点で有意義だったと思います。

最後に、自治会役員は苦労が多く大変ではないか、という問い合わせに「楽しいと思ってやっている」「どうせやるなら楽しくやりたい」と複数の方が回答していました。「いきいきコミュニティライフ」の実践として心強く感じた次第です。来年以降もこの取り組みが続いて欲しいものです。

安藤正知(あんどう まさとも)

認定NPO法人宇都宮まちづくり市民工房 理事長

秋田市出身。化学品会社に16年勤務後退職し、2003年より宇都宮市民活動サポートセンター勤務、2005年NPO法人宇都宮まちづくり市民工房設立に関わり、2019年理事長就任、市民主体のまちづくりを目指して調査研究、まちづくりの実践を行っている。2012年1月宇都宮市が開設した宇都宮市まちづくりセンターの指定管理者としてその管理運営に携わる。

一歩一歩



お知らせ



▼ 新規会員募集 ▼

当協会では、住みよい地域社会の実現のために、地域づくりに必要なリーダーの養成をはじめとする各種事業を行っています。

今後さらに事業の充実をはかるためには、協会の活動に賛同される企業、団体の御協力が必要です。協会の趣旨にご理解いただき、ご加入をお願いいたします。

一般会員（3,000円）・賛助会員（10,000円）・個人賛助会員（2,000円）を随時募集しておりますので、お問合せ等ございましたら事務局までご連絡ください。

▼ 会員代表者等の変更について ▼

代表者、または住所等の変更がありましたら、事務局あてに隨時ご連絡ください。（FAX可）



発行: 栃木県コミュニティ協会
〒320-8501
栃木県宇都宮市塙田1-1-20
栃木県県民生活部県民文化課内
TEL 028-623-2110/FAX 028-623-2121

私たちもコミュニティづくりに協力しています

『できる親切はみんなでしょう それが社会の習慣となるように』

「小さな親切」運動 栃木県本部

代表: 黒本 淳之介
事務局: 栃木銀行 経営企画部広報文化室
住所: 宇都宮市西2丁目1番18号
TEL: 028-633-1241 (代)

